

30・10（さんまる・いちまる）運動を知っていますか

新年度を迎えた4月は、歓送迎会など、会食や宴席の機会が多かったのではないのでしょうか。

宴会などの飲み会の席では、楽しい歓談に花が咲き、ふと気付けば、出された料理に手が付けられていないまま、残してしまっていたということはありませんか。

「30・10運動」とは、宴席の最初（乾杯の後）30分と終わり（お開きの前）10分は、自席について料理を食べる時間を持ちましょうという、食べ残しを減らすための運動です。

この取組は、平成23年に長野県松本市から始まり、食品ロスを削減するための周知・啓発に活用されています。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまった食べ物のことです。その量は、平成26年度の環境省および農林水産省の推計によると、全国で年間621万トンにのぼります。これは、外食産業を含む食品関連事業者から出る食べ残しや売れ残りのほか、一般家庭から出る食べ残しや過剰に除去された調理くず、期限切れなどで手付かずのまま直接廃棄されたものが含まれます。

宴席でのちょっとした心がけが、ごみの減量に役立ちます。食べられるものを無駄にしないために、会食や宴席を楽しみながら食品ロスを削減することにつながる「30・10」を呼びかけてみませんか。

